



2026年

二葉幼稚園

園のたより

10月



10月の聖句

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

新約聖書ローマの信徒への手紙12章15節

10月のさんびか

どんどこ どんどこ

こどもさんびか改訂版106

やってみよう (3歳児) / 交わって 楽しんで (4・5歳児)

自然災害の脅威、被災の現実「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く」とはどういうことだろうか、私達に何ができるだろうかと自問する日々…。謹んでお見舞い申し上げます。

二葉幼稚園では満3歳から園生活を体験できる＜わくわく幼稚園＞という活動があります。1時から2時までは和室で保育者と3組の親子で交わり、楽しく過ごし、その後保護者と離れて在園児の預かり保育（めぐみルーム）で一緒に5時まで過ごします。まさに、やってみよう！

3歳になったばかりのわくわくくん。初めて家族と離れてのめぐみにドキドキ。すかさず年長〇君がやってきて「はじめてなのに泣いてないの？えらいねえ」と声を掛け、また別日「あ！水筒が同じだね」と新たなわくわくちゃんに優しく声を掛ける年中♡ちゃん。一緒にままごとを楽しみました！そんなエピソードをお迎えのわくわくお母さんにお話するとホロリ、涙が頬をつたうことも。ご家族も初めて我が子を預ける時「大丈夫かしら？」と心配。「在園児が優しく声を掛けるから大丈夫です」と私は伝えます。何よりそんなわくわくさんと血気盛んな在園児達と一緒に受け入れ、信頼できる先生達がしっかり寄り添って笑顔で過ごす様子が安心だからです。

門で迎える朝。子ども達の表情は様々。保育室に送りに行き、門に戻ってこられる時、お母さんに「どうでしたか？」と尋ねるとお母さん達はこう仰るのです。「〇先生マジックで気持ち切り替え、スッと入室できました！」と。凄い事です！恐らく先生達にとってはそれが日常で取るに足りないことなのかもしれません。そこには日々積み重ねた信頼関係があり、個々の子ども達をよくよく理解しようとしているからこそ、言葉掛け。先日☆ちゃんが園庭で座り込んで泣き叫んでいました。あまりに長く「家に帰る！」と泣いているので、そばに寄り添う先生にこそっと「お母さんとちょっと散歩でもしてきてもらう？」と声をかけると「大丈夫です。そろそろ声をかけて入室します」ときっぱり。数分後、本当に〇ちゃんは泣き止んでお母さんと離れられ、クラスへ入室したのです！あっぱれ！さすがだなあ…。色んな園で勤務してきましたが二葉の先生達にはいつも感心させられます。無理に、でなくこの子にとってどう対応するのがいいのか、クラス全員にとってどうしていくのがいいのかを常に考え、悩み、話し合い、抱え、関わり続ける先生達。

毎年、新入園児や転入園児の保護者に「二葉を選んだ理由」をお尋ねしています。

「同じ預けるなら、幼少期だからこそ温かい人の輪の中で育ててほしいと思ったんです」「それがなくても保育に支障は無いけれど、子ども達にとってあったら楽しい！と思えるようなことが、これでもか、とちりばめられているこどもファーストの園だから」

「この先たとえ先生達が変わったとしても二葉の温かさは変わらない、となぜだか自信を持って言える園」等々、有り難い想いをお聴かせいただき、恐縮するとともに謙虚に受け止めながら教職員一同身が引き締まる思いです。今月の聖句「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」を念頭に、互いに互いを思い合い祈り合い、一日一日を大切に。【園長】